

第1 日時

令和4年(2022年)10月26日(水曜日) 午後1時15分から午後2時30分まで

第2 場所

彦根市役所中央町別館2階 2C会議室

第3 出席者等

1 委員

Ang Shuen委員、川井 小百合委員、NGUYEN QUANG VU委員、
周 晶委員、劉 百全委員

2 事務局

人権政策課 村田課長、佐伯多文化共生係長、奥村主任通訳

3 傍聴者・報道関係者

傍聴者2人、報道1人

第4 内容(●人権政策課発言、○外国人住民モニター委員発言)

《説明1》彦根市の外国人住民の状況

《説明2》防災訓練への参加について

《意見交換》(●人権政策課発言、○外国人住民モニター委員発言)

【防災訓練参加】

○当日は食料を配る役割として参加。ビスケット・おかゆ・お茶などを均等に渡せるように計算してビニール袋に入れて分けた。訓練なので楽な気持ちで参加したが、食料を配るのは大事なことなのですごくいい体験になった。

○あまりひどくない地震の時は物資が入ってくるがひどい状況になると物資も届かないので、避難所においている物資以外の支援はない設定とし、訓練した。

●状況を共有したうえで分配するということでは言葉の違いに関わらず協力する必要がある。

○初めての参加だったが、とてもいい経験だった。避難所の運営の仕方がわかった。連絡広報班として参加した。訓練は本部から電話が来て情報をもらうが、全く日本語がわからない外国人がいた場合どうするのか、と考えた。通訳翻訳アプリを使ったら伝わるか、検討が必要。

○訓練は1つの内容だけの参加だったが、いろんな訓練に参加できたらいいと思う。

●やさしい日本語も全くわからない人との情報共有にはピクトグラムなどを使うなど対応が必要。

- 外国人住民からの問い合わせにどのように対応していくのか、体制を作る必要がある。
- 自分は今まで保育園から聞いてくる娘に教えてもらった情報しかなかったので今回はとても貴重な体験だった。外国人の防災意識を高めるために、もっと参加してもらいたいと思う。
- 自分が参加した班は日本人より外国人が多い班だった。
- 今回は救護班で消防士の方から AED の使い方などを教えてもらったが、もっと知識がないといけないと思った。
- 防災訓練の参加者を募集するものについて、動画で発信するのがいい。その字から想像するのは、机の下に隠れる、とかいうものになるので、それでは参加したいとは思わない。動画でその模様を見せるのがいいと思う。

【AED】

- 車の免許を取るときに、使い方を学んだくらいなので使えるか不安。
- 学校にもあると思うがどこにあるかわからない、知らない。
- 使い方について情報共有の必要があるとわかった。

【情報共有】

- 防災情報はメールで来るけど、仕事でパソコンを使う人以外はあまりメールを使わないので、LINE 等で発信した方が早い。
- Facebook はやっていない人もいる。中国人は WeChat(ウィーチャット)を多用している。誰かにそこに流してもらおうと中国人に伝わるのが早い。
- 各言語でキーマンを作って共有を手伝ってもらおうのがいい。市役所からキーマン(各言語 1, 2 人ほど)に情報出し、あとはそのコミュニティでの拡散を依頼する。
- 日本人は小さいころから防災訓練などに参加する機会があるが、外国人住民はその経験がない。
- 災害の時は役に立つ WEB サイトやアプリの紹介をするのがいい。
- 大学生の間では LINE を使うので LINE が有効かと思う。
- 気象庁の多言語ページや Safety Tips 等があるので、それを見てもらえたらいい。

《説明 3》彦根市の多文化共生の取り組みについて

- ・今年度からベトナム語通訳が月に 10 日対応できるようになった。
- ・彦根市からのお知らせは QR コードを付けた言語での情報提供ができるようになっている。
- ・市役所の中も日本語以外での案内が増えてきている。避難所でも多言語対応ができるように、市内避難所に指差しシートを配置した。また、救急車にも指差しシートが用意されており、緊急時にも対応できるようになった。
- ・外国人住民とともに暮らすためのサポートをしてくださる方として多文化共生サポーター制度を設けている。サポーター研修会でスキルアップを図っており、今年は 11 月 13 日にワークショ

ップを利用した研修をする。

《意見交換》（●じんけんせいさくかほつげん人権政策課発言、○がいこくじんじゅうみん外国人住民モニター委員いいんほつげん発言）

○サポーターについては知らなかった。

●昨年からサポーター通信を発行している。サポーターの役割の主なものとして、子どもクラブの運営のお手伝いをサポーターにお願いしている。

○各コミュニティで助け合うことが多い。何か困った時にも交流がしやすい。

○日本に長くいる人が新しく来た人のフォローをする仕組みがある。

○大学生は大学生同士でのフォローはある。まだ、大学に相談したら対応してもらえる。

○困ったときに学生は学校に、働いていたら会社の人に聞けるが、誰にも聞けなくて困るのは彦根に来たばかりの人。でも、本当に困っている人は見つけにくい。

日本語学校が彦根にあるといいのに・・・そうすれば、外国人は日本語学校の近くに住みたいから、人口も増えるし・・・

○昔はお金がたくさんもらえるから日本を選択していたが、今は円はそんなに高くないので、医療とかそのほかの部分でメリットがあれば、彦根に来てもらえるんじゃないか。